



阿久根賢一



四代目  
桂春團治師匠



## 今を否定するのではなく、認知症の方が昔話をされたら、ぜひとも共鳴していただきたい。(春團治師匠)

**阿久根** 先ほど1日に5000歩ほど歩かれるという話がありましたが、実はこの本のなかでも、歩くことについて紹介している部分があります。認知症をお持ちの方が、ホーム内を1日に4万歩も歩かれたんです。

**春團治** それは、スゴすぎますね。ゴルフをしても、せいぜい2万歩足らずでしょう。それを考えると、ホンマにスゴいです。

**阿久根** ゴルフだと半日くらいの時間ですけど、本でご紹介させていただいた方は1日中歩かれますから。だけど認知症による徘徊は、一般的な老人ホームや病院では問題行動とされるんです。

**春團治** ほほう、その扱いになるんですね。

**阿久根** でも私たちはお顔を見て、楽しそうに徘徊されていたら、それは問題行動と捉えないんですよ。

**春團治** そういう風に対応してもらえたら、ご本人も嬉しいでしょうね。

**阿久根** 問題行動とされたら、止められてしまいます。だけど止められた側としては、楽しく歩いていたのに止められた。それがストレスになって、認知症が悪化していくんです。豊泉家のメソッドは、徘徊しても顔を見て楽しそうだったら止めない。逆に4万歩歩ける様に食事量を増やしたり、栄養価を高くする等、歩くための支援を行なっています。

**春團治** なによりもの心遣いですね。「ボケたんかい」などと、とにかく否定せんといしてほしいですな。

**阿久根** この本のなかでは、「否定をしない」もキーワードの1つになっています。認知症をお持ちの方に対しては、いかに否定しないかは大事なポイントなんです。

**春團治** 歩き回っている人などの面倒を、どう見てあげるかということですね。また米朝師匠の話になりますけど、ある時、「師匠、ありがとうございます。」と言ったら、師匠は「なにがや。」と。「夕べは、ご馳走になりました。ありがとうございます。」と言ったら、「誰が、ご馳走したんや?」と仰ったんです。それでも、昔の話や昔の芸人の話をしたら、事細かにお話をしてくださる。だから接する側も、そこを、ちゃんと見極めてほしいですね。今を否定するのではなく、その方が昔話をされた、好きな昔の歌を歌われたとか。そういう場面に接している際は、ぜひとも共鳴していただきたい。

